

知識を創造するという役割

株式会社ナレッジ・デザイン
代表取締役社長 信田 哲彦 氏

岐阜でおなじみの書店となつている「カルコス」を運営する株式会社ナレッジ・デザイン。信田哲彦社長は独創的なアイデアで、「お客様にとって理想的な書店とは何か」を追求しています。

書店として成功するまで

私たちが経営している書店「カルコス」は現在、県内外あわせて6店舗あります。それぞれ地域の皆様に親しまれ、ここまで成長することができました。

創業当時、カルコスの前身である「信田屋」は書店ではなく書店でした。本を扱い始めたのは昭和20年代半頃ですが、その時も書店一本ではありませんでした。化粧



▲人気の読書スペース

品を取り扱っていた時期もあり「カルチャー&コスメティック」から「カルコス」という社名が付けられ、

その名前が現在の書店に継承されています。

平成7年、「カルコス岐阜本店」を開業するにあたり、「書店はお客様がただ本を買うだけの場ではなく、お客様の知的好奇心を満たしてくれる場」という理想から、書店では異例ともいえる読書スペースを設けました。現在では当たり前のようにになりましたが、当店が日本で初めて導入したと言われていました。そのような「自分が行ってみたいと思える店をつくる」という思いが書店ビジネスの成功要因であったと思います。

社名に込められた思い

平成12年に社名を現在の株式会社ナレッジ・デザインに変更しました。これは、私が社長に就任した平成11年に設立した子会社の名前です。「Knowledge Design」には「知識をデザインする、創造する企業になりたい」という思いが込められています。私を含めた社員はもちろんです。ご来店いただき、商品を手に取り、そしてお買い上げいただくすべてのお客様の知識を得るサポートをしていきたいと考えているからです。それは本や文具にかかわらず、

ありとあらゆる知的活動の道具が私たちの商品であることを意味しています。この理念を逸脱しないことが当社の基本的な方針です。

地域の中での「役割」と「責任」

私は、店舗展開していく上で、利益や業績をあげることも重要だとは思いますが、それ以上にその地域で与えられた「役割」を守ることが大切だと思っています。「役割」というと少し分かりにくいかもしれませんが「その地域で求められていること」だと定義しています。その「役割」を超えた事業はたとえ効率がよく、儲かるからといって、店舗展開しようとは思いません。「役割」を全うすることが当社の「責任」であり、重要だと思っています。

電子書籍の普及や活字離れが騒がれる今、書店というビジネスは不安定な面もあります。しかし私たちに与えられた「役割」と「責任」をしっかり意識して、お客様の知識をサポートすることに徹し、業

界の発展に貢献していきたいです。



▲厳選して取り揃えたステーションナリー

▼カルコス岐阜本店



▲「役割」という独自の職業観を語る信田社長

Company Data

株式会社ナレッジ・デザイン

本社 ●岐阜市菅生8-7-21
電話 ●058-389-7503 (本部)
事業内容 ●書籍・雑誌・文房具の販売
創業 ●明治35年
HP ●http://www.knowledgedesign.co.jp/